

鮫島選手の実家で30人 健闘ねぎらう

「銀でも美しい」

なでしこの得点シーンで歓喜する鮫島選手の両親(右前)や友人ら。10日午前5時10分、宇都宮市立伏町、福田守撮影



「銀でも美しい」「よくやった」。サッカー女子代表「なでしこジャパン」は10日早朝、ロンドン五輪の決勝で米国に惜しくも1-2と敗れ、銀メダルとなった。しかしサッカー女子の五輪でのメダル獲得は初めてで、宇都宮市出身の鮫島彩(25)、安藤梢(30)両選手は偉業達成に貢献した。同市立伏町の鮫島選手の実家には決勝戦に合わせて友人など約30人が集まり、地元から生まれたヒロインに熱い声援を送った。あと1点、届かなかった。試合終了を告げる笛が響くと、鮫島選手の実家に集ま

った応援団からは大きなため息が漏れた。だが、すぐに銀メダル獲得を祝福する声と拍手に変わった。「頑張れ、彩」「いいぞ」。声援は絶えることなく、ニッポンコールや鮫島コールもわき起こった。後半32分に鮫島選手が交代し、ピッチを出る際には拍手で労をねぎらった。

最終盤は祈るように中継を見つめていた母佳代子さん(53)は「精いっぱい」。決勝では出番がなかった安藤選手の父寛さん(58)は同市岩曾町の自宅で妻とテレビ観戦した。「決勝の舞台で少しでも見たかったけど、銀メダル獲得は立派」とたたえた。安藤選手は3大会連続の五輪出場で、メダル獲得まで成長したな



日本-米国 後半、ボールを奪う鮫島(左)、川澄(右) =ウエンブリー競技場

しこを支え続けてきた。「表彰式ではいい表情だった。早く顔を見てお疲れさまと言ってあげたい」と話した。(荒井克己)

感動ありがとう

佐藤栄一宇都宮市長のコメント

安藤梢選手、鮫島彩選手、そしてなでしこジャパンの皆さま、ロンドン五輪での銀メダル、誠にありがとうございます。なでしこジャパンが数々の強豪国を相手にひたむきに戦う姿は、私たちにたくさんの勇気と感動を与えてくれました。サッカー界の新たな歴史を築き上げたなでしこジャパンは、私たち宇都宮市民の誇りです。感動をありがとうございます。51万宇都宮市民を代表して心からの賛辞をおくりたいと思います。

忘れられない夏

福田富一知事のコメント

安藤選手、鮫島選手、銀メダル獲得本当におめでとうございます。あと一歩のところまで金メダルには届きませんでした。安藤選手は豊富な運動量を生かして前線で常にゴールを目指し、鮫島選手は不動のサイドバックとして守備はもちろん攻撃にも積極的に参加するなど、両選手の大活躍によって、見事「なでしこジャパン」は五輪の大舞台で大輪の花を咲かせてくれました。メダル獲得は、とちぎ「県民にとって大きな誇りであり、忘れることのできない感動の夏として記録と記憶に残るでしょう。」

吉田も3連覇

レスリング 女子55kg級



【ロンドン共同】ロンドン五輪第14日の9日、レスリング女子55kg級決勝で、吉田沙保里(29)がALS OK(カナダ)を下し、優勝した。五輪3連覇は前日の63kg級の伊調馨(28) || ALS OK || に続いて日本女子2人目の偉業で、日本選手団に五つ目の金メダルをもたらした。

大会の「日本の顔」。5月の国際大会で4年ぶりに黒星を喫して不安要素はあったが、持ち前の攻撃力で3度目の大舞台も頂点へ駆け上がった。世界選手権と五輪を合わせた2002年からこの連覇は12まで伸びた。大げさも長期休養もなく勝ち続ける女王が、大きな勳章をまた加えた。

開会式の旗手を務めた今